



Vol.1

創業から5つの事業が生まれるまで

受け継ぐこと、 変えること

舞台は新明和グループが創業100周年を迎える2020年—
創業から現在までの軌跡、そして、未来に向けた
新たな挑戦を描く、グループ報「Face」別冊コミック3部作。
今回はVol.1をお届けします！

100th

創業100周年

海軍栄電改局地新開機



歴史がありますよね…
そういえば
創業からしばらくは
航空機の
専門メーカー
だったそうですよ

そのころ
たくさん名機を
生み出してるんです



海軍九七式飛行艇



海軍二式飛行艇

昼休み



お疲れさま

新明和工業
産機システム事業部
宝部 新(タカラベ アラタ)
製造担当(入社3年目)

何読んでるの

あ
お疲れさまです
今日配られた
グループ報ですよ

新明和工業
産機システム事業部
宮根 小和(ミヤネ コヨリ)
営業担当(入社3年目)

今回
自分も載っているので
ゆっくり読もうと
思ってた…



あら
よく写ってる
じゃない

あなた
飛行機好きでしょ？

はい
バレました？

航空機メーカーから
会社が今の姿になるまで
どんなことがあったのか
今まで気にしたことな
なかったわ…

ぼくはちょっと
気になってた
んですよ

…て
そんなことより
知ってましたか？

僕たちの会社って
今年創業100周年
らしいですよ
これに書いてました

100th

受け継ぐこと、変えること
創業100周年

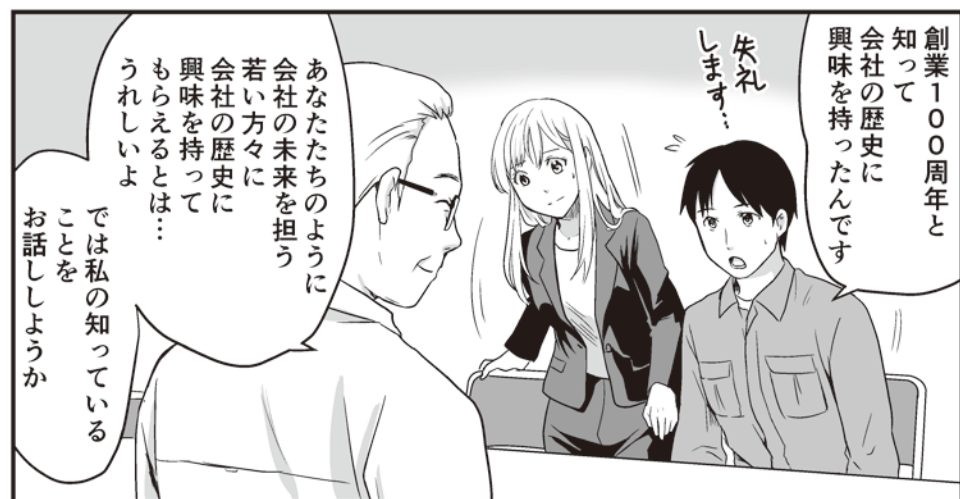
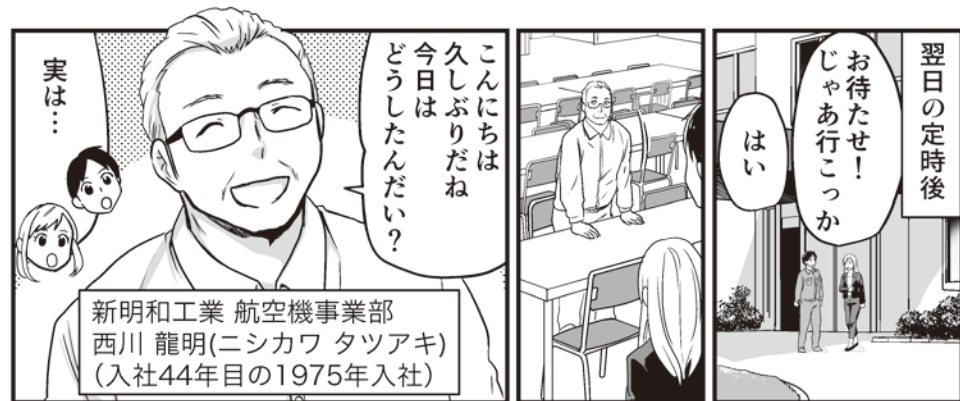
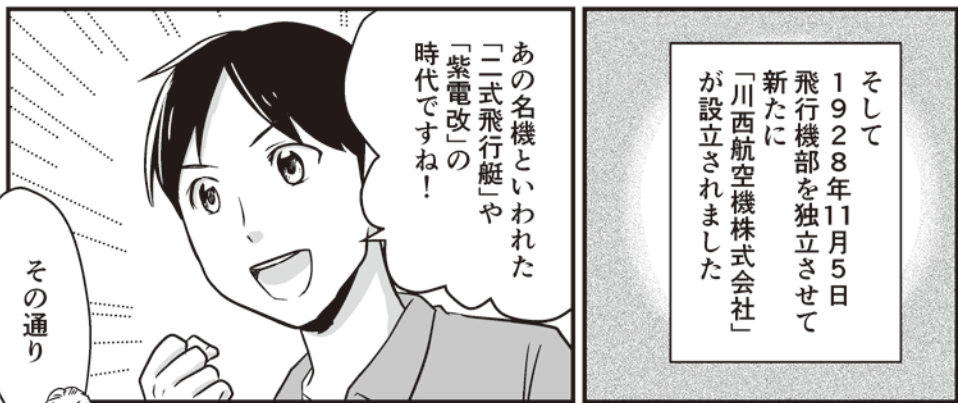
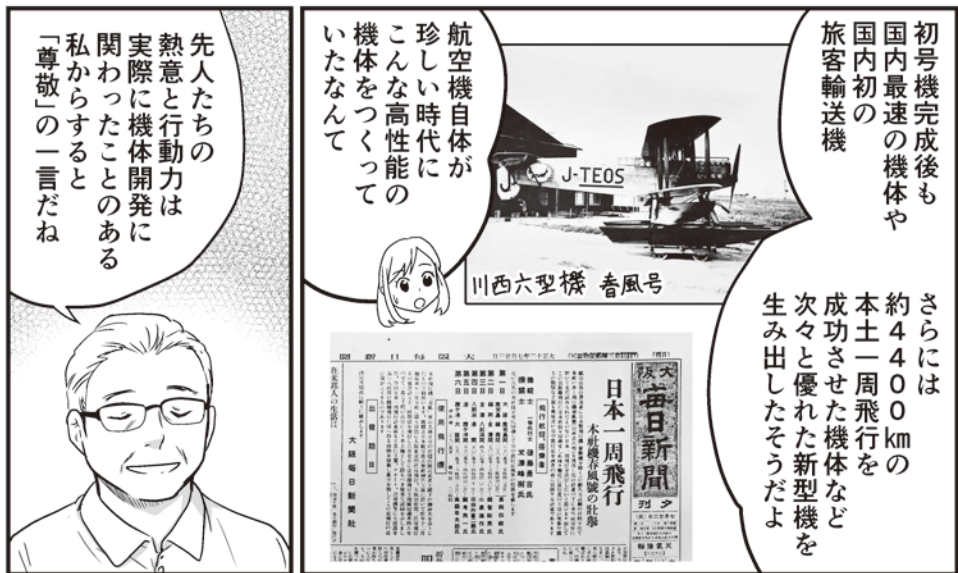
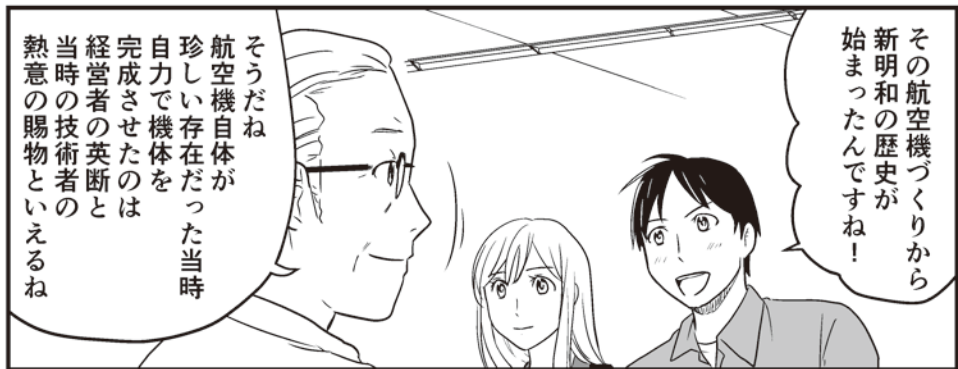
100年!
1世紀も続いているって
いうこと!?

どうして
全く違う分野の
事業部・区処が
5つも
できたのか



ねえ
工場実習のときに
よく声を掛けてくれた
西川さんなら会社の歴史にも
詳しいんじゃないかしら

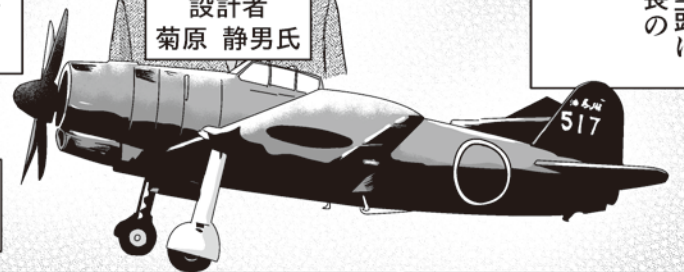
そうですね!
明日一緒に
聞きに行き
ましょうか



川西航空機は
当時「飛行艇の神様」といわれた
菊原静男博士(設計者)を筆頭に
技術者たちと川西龍三社長の
飛行機づくりへの
熱い想いが原動力となり
機体を次々と開発・製造

川西航空機株式会社
りようぞう
川西 龍三社長

設計者
菊原 静男氏



そして1931年
満州事変をきっかけに
日本は戦争の時代へ
突入

海軍指定工場となった
川西航空機は終戦まで
海軍からのさまざまな
要求に応え
あの有名な「二式飛行艇」
「紫電改」をはじめ
2890機もの機体を
世に送り出しました

海軍紫電改
局地戦闘機

川西航空機の機体は
外国製の機体を買って
飛行機を買って
参考にしたり
技術提携したりせず
独自で開発して
いたんですよね

へえ、
よく知って
いるわね

えへへ
興味があったので
調べたんです

すごいです。

しかし1945年
日本の敗戦とともに
国内メーカーによる
航空機の開発・製造は
一旦禁止されて
しまうんだ

ええ!

第二次世界大戦後
GHQ
(連合国軍総司令部)から
中止命令を受ける

航空機製造
全面禁止

もう
航空機は
つくれない

当時の社員は
航空機づくり
全てをささげて
いただけなのに
そのとき受けた
ショックは
はかり知れないよ

時代の流れとはいえ
社員の思いの
つまった事業が
続けられなく
なるなんて...

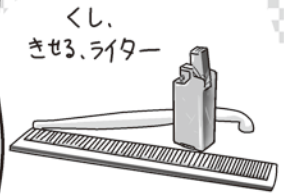
しかも当時は
航空機の専門メーカー
ですよ

まあまあ
2人とも
そう暗く
ならずには...

自分だったら
耐えられない...

この出来事が
会社にとって
大きなターニング
ポイントとなるんだ

終戦直後
しばらくの間は
モノ不足や
復興を目指す世の中が
必要とする
さまざまな道具を
器用につくって
いました



このころ
パン焼きオーブンを
手掛けたことも
社史に
記されていたよ



そんな中
川西航空機は
新たな創業期にある
会社の姿勢を示すために
1947年には社名を
「明和興業」に改めたんだ
「明和」には
「明るく和していく」
という思いが込められて
いるよ



「和衷協同」
(心を同じくして
共に力を合わせて
仕事に当たろう)という
川西航空機時代からの
社訓を大事にしつつ
社員の「和」を
大切にしたいという
意味だね

そして1946年
事業転換推進のために
新組織を発足し
GHQから転換が
許可されると
後に今の事業につながる
さまざまな新事業に着手



決して立ち止まらず
自分たちにできることを
考えて行動に移したん
ですね

その通り

この仲間と
もう一度
航空機を
つくるんだ!

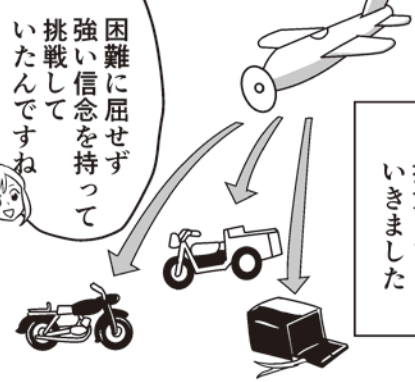
そのためにも
技術を...
会社を存続
させるんだ!!



いつかまた
航空機を
つくれると
信じていたから
頑張れたんだら
うね

川西航空機時代に
培った
技術を生かし
その時代が求める
モノづくりに
挑み続けた結果

事業領域が
拡大して
いきました



困難に屈せず
強い信念を持って
挑戦して
いたんですね

諦めないこと
継続することの大切さを
社史に登場する
先輩方から教えて
もらっている気がするよ

会社の再建は
社員の「和」に
かかっていると考え
この社名が採用
されたそうだよ

1949年に
「明和」の頭に「新」を付け
「新しく生まれ変わった」
「前途洋々とした」
「若々しいエネルギーに
満ちあふれた」会社で
あることを表現したんだね

そして1960年に
日立製作所の
傘下に入り
同時に社名も
「新明和工業」に
なったんだよ

その後
現在も受け継いで
いる社名が制定
されたんだ

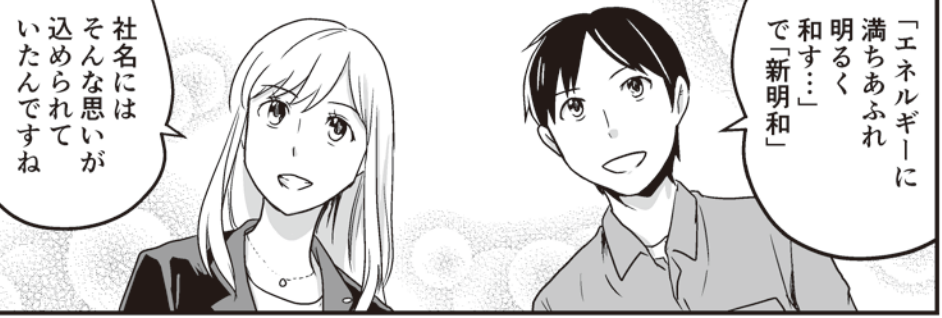


清 謙 心
謙 実 心
進 取

社は

「エネルギーに
満ちあふれ
明るく
和す...」
で「新明和」

社名には
そんな思いが
込められて
いたんですね





ダンプトラック以外にも
塵芥車やテール
ゲートリフタの
生産を開始するなど
このころに
現在の特装車事業の
主力となる製品が
誕生しました

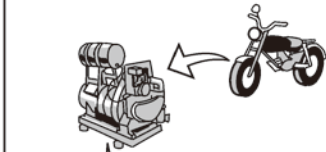
ところで
西川さんのお話では
事業転換後に生まれた
さまざまな製品や事業が
今の主力製品の基盤に
なっているんですよね？



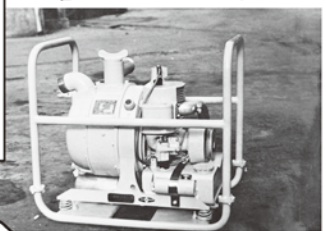
社史によると
特装車事業の起源は
1946年
川西モーター
サービスタ部を設置し
アメリカ陸軍の
自動車修理を開始した
ところから始まったと
記されてるよ



この技術から
ポータブル発電機が生まれ
そして国内のメーカーから
アメリカのポンプを共同で
国産化しないかという依頼が
あったことをきっかけに
1954年
現在の流体製品の源流となる
自吸式ポンプが生まれました



自吸式ポンプ 第一号



別の部隊では
オートバイ用の
エンジンなども
手掛けていたんだよ
ポインター
ですね！



車両の修理を手掛けつつ
モノづくりにつながる
ビジネス創出を目指して
特装車の架装について
研究したそうです



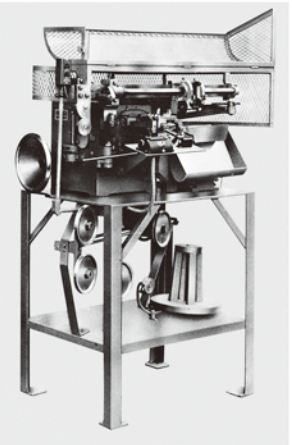
こうした中で
先人たちは
ダンプトラックの
機能部品に
着目したんですね

そして
1949年に航空機の
油圧技術を生かした
ダンプトラックが完成
今や国内トップシェアを
誇る製品です



ダンプトラック 第一号

さらに
大手メーカーからの
受託開発として
国内初の
ワイヤー・ストリッパーが
生まれたのが
1956年だ



ワイヤー・ストリッパー 1号機

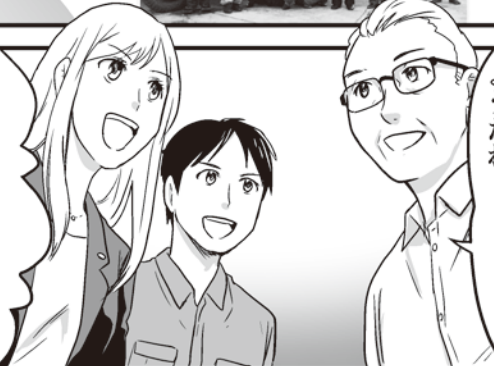
私たちの
産機システム事業は
ここから
はじまったのね！



今でも
高度な加工技術を
追求しているけれど
当時も前例のない
製品だったんですね



それから
70年以上経った
今でも
新明和を代表する
製品として会社を
支えてきたんですね




当時
「車が壊れても
川西の油圧ポンプだけは
絶対に壊れない」とまで
言われたほど
製品の耐久性が高かった
ようだね

1960年に日立製作所の傘下に入ったのも航空機を開発するには相当な資金や社会的な信用が必要だったからだろうね

なるほろ……

そしてついに1966年防衛庁(当時)との間で「PX1S (PS-1型航空機)」の開発について正式契約を交わすことができたんだ

今の「US-2」につながる機体ですね



会社のことほとんど知らなかった……

時代の変化を察知しそれをかたちにできる技術力で世の中が求める製品を次々と創出したからこそ現在のようになら多種多様な事業を展開する会社になったのですね

ところで航空機はいつからつくられるようになったんでしょうか？

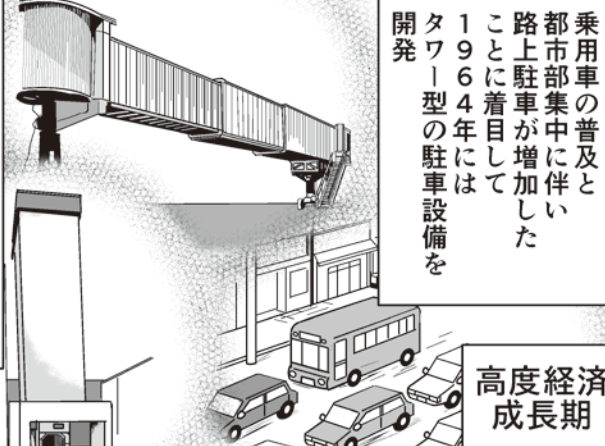
ええ、なるほろ……



一方乗用車の普及と都市部集中に伴い路上駐車が増加したことに着目して1964年にはタワー型の駐車設備を開発

先ほど説明した特装车や自吸式ポンプワイヤー・ストリップパーも経済成長とともに事業を拡大さらに1968年には新たに航空旅客搭乗橋の製造についてアメリカの企業と技術提携

高度経済成長期



1952年国内の航空機製造が解禁となりようやく事業が再開できたんだ

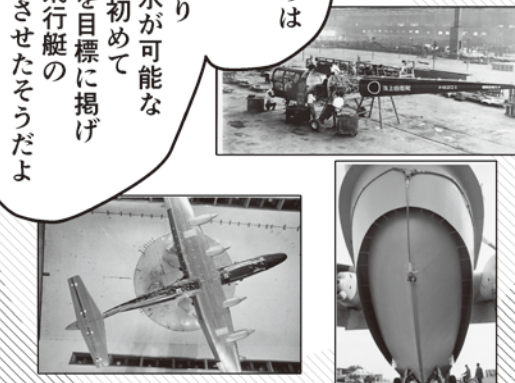
感極まる先輩たちの姿が目につかびます

当時を知る先輩から聞いた話では

完全な機体に接したのはヘリコプターのオーバーホールで

1953年になり「荒海でも離着水が可能な飛行艇を世界で初めて開発すること」を目標に掲げ1959年に飛行艇の基礎設計を完了させたそうだよ

また航空機をつくれる…!!



その後オイルショックに見舞われるなど厳しい時代も経験しましたが合理化・効率改善や社員の努力により

1988年海外初の拠点となる合弁会社をタイに設立その後アメリカやシンガポールと相次いで現地法人を設立しました

タイでの調印式

海外進出したのはこのころなのです

80年代後半には売上が大幅に拡大しました



構想から完成までそんなに短期間で!!

ゼロベースからのスタートではなく先人たちの経験と知識が受け継がれていたのでからこそ実現できたんだらうね

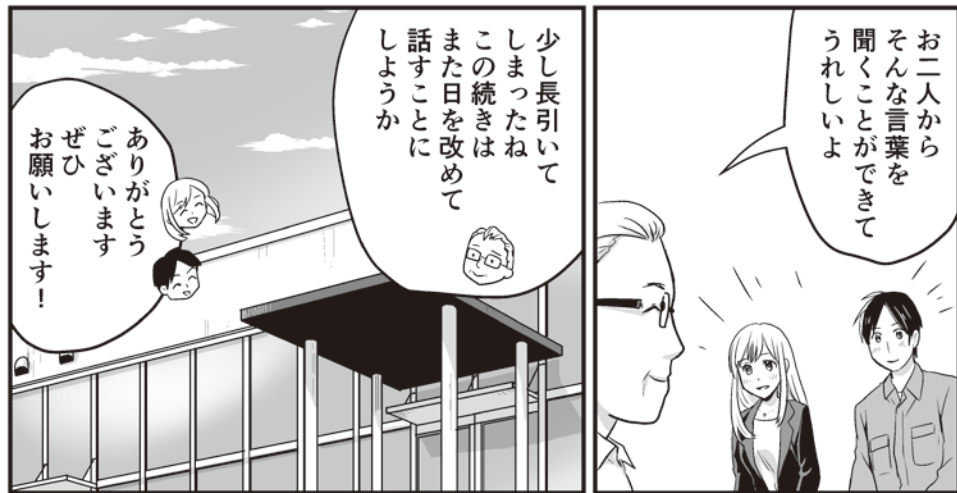




今の自分に
できることは
間違ったの
製品をつくり
先輩たちの築いてきた
信頼を維持し続けて
いくこと…かな…?



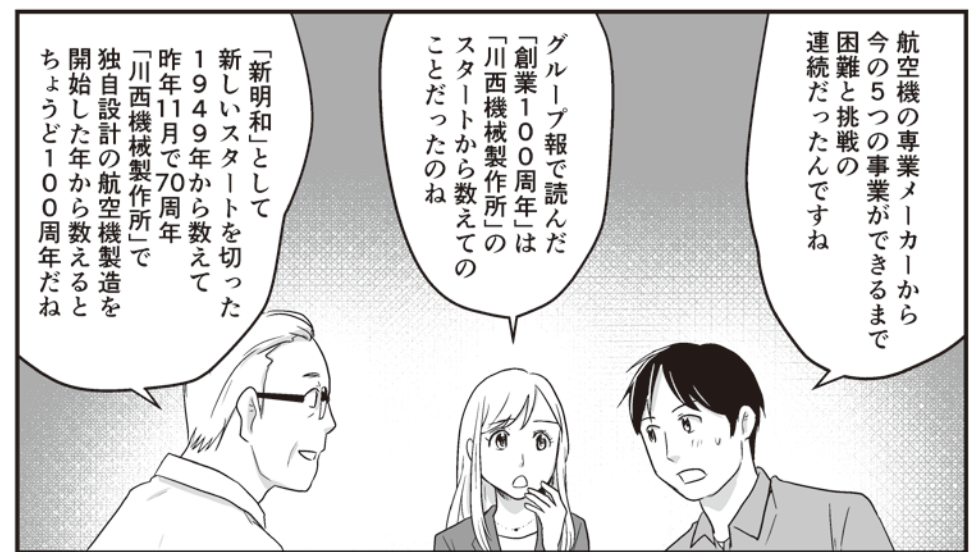
私の仕事は
お客さまと現場を
つなぐこと
つまりお客さまに
とって「私＝新明和」
なので
私の対応次第で
より密接な関係を
築くことも
信頼を失うことも
あるので
日々の仕事と丁寧な
向き合うことが
歴史をつなぐこと
なんだと思います



お二人から
そんな言葉を
聞くことができ
うれしいよ

少し長引いて
しまったね
この続きは
また日を改めて
話すことに
しようか

ありがとう
ございます
ぜひ
お願いします!



航空機の専門メーカーから
今の5つの事業ができるまで
困難と挑戦の
連続だったんですね

グループ報で読んだ
「創業100周年」は
「川西機械製作所」の
スタートから数えての
ことだったのね

「新明和」として
新しいスタートを切った
1949年から数えて
昨年11月で70周年
「川西機械製作所」で
独自設計の航空機製造を
開始した年から数えると
ちょうど100周年だね



ゼロの状態から
多様な製品を
生み出す力があり
お客さまからも
必要とされ続けて
きたからこそ…

100年間も
歴史が続いて
きたんだね

…この先の歴史を
つくっていくのは
君たちだよ



新明和グループ報 **Face** 創業100周年記念特別号 別冊

受け継ぐこと、変えること

Vol.1 創業から5つの事業が生まれるまで

宝塚市新明和町1番1号
新明和工業株式会社 経営企画本部 広報・IR部

発行日 2020年2月1日